

令和3年度「第2回 宇都宮市学校教育推進懇談会」会議録

■ **日時** 令和3年10月15日（金）10：30～12：00

■ **会場** 宇都宮市庁舎14大会議室

■ **出席者**

委員： 人見 久城 会長，福田 治久 副会長，若園 雄志郎 委員，小池 恵一郎 委員，
山田 修嗣 委員，高橋 順子 委員，西園多佳子 委員，今井 政範 委員，
軽部 幸治 委員，生田 敦 委員，田中 芳浩 委員

事務局： 教育長，教育次長，学校教育担当次長，教育企画課長，学校教育課長，
学校教育課 GIGA スクール推進担当主幹，学校健康課長，生涯学習課長，
教育センター所長，学校教育課課長補佐他

■ **委員からの主な意見・質問等（要旨）**

○「第2次宇都宮市学校教育推進計画」について（資料1，1-1）

○「第2次宇都宮市学校教育推進計画」の令和2年度取組状況について（資料2）

【基本目標1，2について】

委員： 基本目標1（4）について。将来の夢や目標についてはコロナウイルス感染症拡大の影響があるのではないか。社会情勢上子供たちは、将来の夢や目標をもちにくい状況であると思うが、どうとらえているのか。

事務局： 社会情勢の影響はあり、明確な目標をもちにくくなっていると思われる。しかし（学校教育課）ながら、本市において、現状値が下がっていないのは、学校がコロナ禍であっても子供たちが目標をもちやすい学校行事等を可能な限り行ってきたことが背景にあると考えている。

委員： 学校は、感染防止対策を図りながら、職場見学などの行事を行っている。

委員： 宮っ子チャレンジウィークは実施できない学校も多くあったが、校内でキャリア教育に係る取組を実施するなど工夫しながら行っていた。中学3年生以外の学年の現状値が気になる場所である。小学校低学年や中学校1年生あたりもコロナの影響で現状値はどうか。そして、それらの数値を分析する必要があると思うがいかが。

事務局： 現状値として利用している「学習と生活についてのアンケート」については、小（学校教育課）学校1年生から中学校3年生までを対象としている。結果としては、全体的に横ばい傾向である。推進計画の指標としては、義務教育最終段階の達成度を把握するため、中3生の数値を指標としている。

委員： コロナの影響で、子供たちは家で過ごす時間が増えたが、家庭の指導力にばらつきがある。学力に差が出ているのか。学校はどう指導しているのか伺う。

事務局： 家庭学習での差が出ていると思われる。本市で導入したA I型個別学習ドリルは、（学校教育課）担任がそれぞれの児童生徒の学習状況を把握できるので、指導に有効に使っている。

委員：基本目標1（4）について、コロナウイルス感染症拡大の影響で現状値がもっと下がっていると思っていたが、微減にとどまっている。夢や目標をどうとらえるか、そもそもどういふことを評価すべきなのかを検討する必要があると考える。また、宮・未来キャリアパスポートの他に何か取組があるか伺う。

事務局：宮・未来パスポートを活用して、行事や活動ごとに目標をもたせるなどしている。（学校教育課）その他には、朝の会や帰りの会、また学級活動などの場面で、お互いの夢や目標について語り合う機会などを設けており、集団で学び合いながら、自分の夢や目標を捉え直したり自己評価したりできるようにしている。

委員：先生方がいきいきと働いている姿を見せるのも良いと思う。

委員：中3生の数値を指標としているが、小6の数値も必要ではないか。例えば、基本目標2（2）では、小6生の数値があるとよいと思う。

委員：基本目標1（1）について、AI型個別学習ドリルに特別支援学級の子供が楽しく学んでいた。情意面の調査とはどのように行うのか。

事務局：AI型個別学習ドリルの導入により、学力が大きく変わるまでには至らないと考えている。（学校教育課）まずは、学習時間、学習意欲が上がるなどの情意面は上昇すると考えている。また、AI型個別学習ドリルの導入は、先生方の働き方改革に大きなメリットがあると考えており、副次的には紙代などの経費を抑えられると考えている。調査は、抽出校を対象に12月に調査を行う予定であり、今後活用していく予定である。

【基本目標3～6について】

委員：基本目標3（4）について、現状値が下がっている傾向にあるがコロナウイルス感染症拡大の影響があるのではないかと考える。学びの場の安心安全確保が一番の基本である。学校内外の安心安全マップ、教職員の不祥事防止、職務上の健康など、安心安全を確認できるものがあるとよい。基本目標4（2）チーム力、（3）リフレッシュデーなどの結果は素晴らしいが、先生方は本当に余裕をもって生活しているのか疑問がある。義務教育では、丁寧な指導がなされている反面、子供たちにとっては、与えられていることが多い印象がある。自ら考え、未来を切り抜ける人材の育成が必要である。

委員：基本目標6（2）ICTについて、タブレットでのいじめが問題になっている。宇都宮市ではどういった取り組みをしているのか伺う。

事務局：ネットでのトラブルがあると使うのをやめればよいのではといった議論になりがちである。（教育センター）宇都宮市では、ICTに関する正しい知識を身に付けさせることを目的として、情報モラル教育に関する指導資料を配布するとともに、家庭の持ち帰りに備え、家庭向けの周知を行うなど、情報モラル教育を充実させている。

委員：基本目標5（2）について、現状値が下がっている状況にあり、新型コロナウイルスの影響と分析されているが、それだけでは無いと考える。コロナ以外の影響も検証すべきと考える。

会長：コロナ以外の影響も分析しなくてはならないと考える。

- 委員：情報モラルについて、教育委員会のリーダーシップが重要である。タブレットを使う上での約束が大切である。チャット機能など、いじめにつながるような事項を学校体制で排除していく必要がある。
- 委員：基本目標3（2）について、いじめの認知件数は、全国的に認知件数は減っているが、宇都宮市は増えている状況であるが、市ではどのように捉えているのか。
- 事務局：1つの学校が、積極的に認知したことが影響している。全体としては横ばいである（学校教育課）と捉えている。
- 委員：基本目標3（2）について、全国では小中学校の自殺者が増えていると聞く。学校以外の機関でも学ぶことができることなどを発信して欲しい。また、基本目標4（1）について、教員採用試験の見直しが必要ではないか。
- 会長：教員採用試験は県の管轄であるが、市としても声をあげて頂きたい。
- 委員：働き方改革などがあって、コミュニケーションをとるのが難しい時代になっている。本計画をそれぞれの学校で、どの程度アレンジしているのか。また、基本目標2（1）の地域教材についてであるが、身近な地域のことをどの程度学ぶのか。
- 事務局：本計画に基づき、学校が取り組むべきことを示した学校教育スタンダードがあり、（学校教育課）各学校は、スタンダードを踏まえ学校経営計画を作成している。
「宇都宮学」は、宇都宮全体のことを学んだ後、自分たちの地域を学ぶようカリキュラムがデザインされている。
- 副会長：基本目標5について、学校のコロナ対策の制限が強すぎるのではないか。感染が拡大した時期など、トレンドを踏まえて、学校行事や地域の行事を組むべきであるとする。感染拡大についての情報について、兄弟関係などの情報共有の仕組みを構築してほしい。また、基本目標6（2）について、タブレットを用いて授業を受けられるようにしてほしい。推進懇談会の持ち方についてであるが、これだけのボリュームで1時間では短いと感じる。次回以降は内容にそって変更してほしい。第2次推進計画の改定は今後どのようにになっているのか。
- 事務局：本計画については、次年度に中期見直しを行い、懇談会は、3回の開催の予定である。（学校教育課）